

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103136
法人名	医療法人 創実会
事業所名	グループホーム はなの家
所在地	松山市六軒屋町3-19
自己評価作成日	平成27年 10月 6日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年11月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>同敷地内には母体医院があり、隣接している泌尿器科クリニックとも医療連携体制が整っており緊急時の対応も速やかに行っている。また、利用者が重度化した場合や終末期のケアが必要な場合でも医師・家族と相談したうえで退所することなく当ホームで生活して頂けるよう、職員も勉強し身につけていっている。</p> <p>年1回行われるはな祭りや運営推進会議を通して地域の方々にも理解・協力を頂いている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>入居前には、管理者が自宅に出向き、ご家族やご本人の話を聞き取り、入居者情報シートにまとめて職員間で共有している。職員は毎日、午前中に「今日一日をどんな風に過ごしたいか」利用者に関き、その日の過ごし方の希望を知るよう取り組んでいる。利用者の状態によっては、入浴時間や行いたいこと等、その都度聞きながら支援するケースもある。人形の洋服作りがお好きな方には、一緒に手芸店に出かけて布地等をじっくり選べるよう支援している。</p> <p>ご家族に利用者の暮らしぶりをいろいろな職員の目線で報告できるよう、毎月違う職員が手紙を書いて送付している。又、年3回発行する事業所便り「はな便り」を送付したり、ブログで行事や外出の様子を発信している。</p> <p>今年11月、事業所が所在する地区の3つの町内会と一緒に、法人の敷地内で「合同防災訓練」を行なった。案内は事業所が作成し、町内の回覧板や地域の掲示板で知らせ、当日は地域の方や利用者、職員等、約50名程参加した。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームはなの家

(ユニット名) 桃

記入者(管理者)

氏名 安川 拓郎

評価完了日 平成27年 10月 6日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所の理念、ユニットごとの理念を掲げ利用者を支えていけるよう、実践に努めている。 (外部評価) 法人の運営理念である「ぬくもりは我が家のように」を事業所理念としても掲げている。又、各ユニットごとに「わのある生活」「もういいなんて思わない、笑顔の見える介護を目指します」「いつも寄り添い優しい声かけ」と目標を立て、毎朝の申し送り時に復唱等して理念の実践につなげている。年末のミーティング時には、みなで話し合い振り返る機会を持っている。管理者は、新人職員や入居契約時のご家族にも理念について説明している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎年5月には『はな祭り』を開催し、地域の方々も大勢来場して頂いている。また、地域の小学生の来訪があったり、町内の防災訓練にも参加させて頂いたり色々と交流を図っている。 (外部評価) 開設以来13年間、毎年法人全体で「はな祭り」を開催しており、又、地区の小学校の児童との交流を継続する等、地域とのおつきあいを積み重ねている。児童の保護者も来てその様子を見る機会もあった。地域の方のお誘いで、いきいきサロンの「ふまねっと」に、毎月数名の利用者が参加できるよう支援している。管理者は今後、事業所の特性を活かして、認知症についてお話ししたり、一緒に勉強するような機会を増やしていきたいと考えていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ボランティアで来られた方や小学生が来訪する際には認知症の方との関わり方について職員も一緒に関わり説明をおこなっていている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>会議の中で日頃の利用者のホームでの様子をお伝えし たり、毎回テーマを決めて、意見や情報を交換し合っ て、サービスの向上につなげていっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議には町内会長や隣の町内会長、民生委員をはじめ、ご 家族や地域の方が参加している。会議時は、行事報告を行 なったり、避難訓練や昼食試食会、高齢者ソフト食の勉強会 等、毎回テーマを決めて行っている。利用者の入れ替わりに 伴い、新しいご家族が増えたため、順番に案内してその都度 グループホームや運営推進会議の意義や役割について説明し ている。事業所便り「はな便り」に会議内容を載せてご家族 等に報告している。</p>	<p>会議や日頃の活動等を通じて地域の方達も事業所をよく知っ てくれているため、今後はさらに、事業所のケアサービスの 質向上につながるような意見を引き出せるよう会議の取り組 みに工夫されてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市役所の介護保険課・市社協・地域包括支援センター の方々には毎回案内を出し運営推進会議にも参加して 頂いている。その際に助言・協力を頂いている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市の介護保険課と地域包括支援センターの担当者が運営推進 会議に参加しており、法改正についての説明があったり、地 域の方等に向けて介護相談の出張窓口の予定等を教えてくれ る。今年10月から毎月2回、3名の介護相談員を受け入れて おり、利用者とお話し等して気付いた事等を教えてくれてい る。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の研修への参加やホーム内での勉強会などで 話し合い、職員は理解し合っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所玄関は施錠しておらず、自由に出入りできるようにし ている。ユニットの出入り口には鈴を付け、職員は利用者の 動きに気を付け見守っている。掛け布団の端に鈴を付けて動 きを把握しているようなケースもある。体を強く揺く方 には、入浴後小まめに爪を切る等して対応している。管理者は 他介護施設での虐待事件や事業所の過去の事例を話しなが ら「誰に見てもらっても良い声かけ」をするよう伝えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修への参加や、ホーム内での勉強会で話し合い、職員一人ひとり理解し防止に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修への参加や勉強会を設け理解し合っている。成年後見制度については実際に活用している利用者もおられるので協力している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 見学に来られた時などに十分な説明を行い、利用者・家族の理解・納得を頂いたうえで、契約に至っている。また、介護報酬の改定があるときには、利用料の増減について了解を得るよう説明している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会や面会に来られた時等に家族と話す機会を作り、意見や要望等あれば話し合い、反映させていけるように努めている。 (外部評価) ご家族に利用者の暮らしぶりをいろいろな職員の目線で報告できるよう、毎月違う職員が手紙を書いて送付している。又、年3回発行する事業所便り「はな便り」を送付したり、ブログで行事や外出の様子を発信している。ユニット入り口に職員の顔写真を掲示しており、新しい職員を確認するご家族もいる。度々来訪して、利用者の状態や事業所のことをよく知るご家族も多数いる。家族会は年2回、運営推進会議後に、いも炊き等の行事と併せて行っており、家族同士の親睦の機会にもなっている。この2年間で、11名の利用者の入れ替わりがあり、新しいご家族も増えたため、サービス評価実施時には、管理者が、外部評価やアンケートについて用紙にまとめ説明を行い、合わせて「何でも気軽に相談して下さい。」と伝えた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回行われるミーティングの中で意見や提案を聞く機会を設け、ホーム長から代表者へと伝えて頂き、反映につなげていっている。	
			(外部評価) 全体ミーティングでは、担当を決めて勉強会を行ったり、研修に参加した職員が発表する時間を設けている。職員の急な休みには、管理者がシフトに入りカバーをしている。職員の中には、「今後さらに、歌を楽しみながらできるレクリエーションを増やしていきたい。」と話す方もいた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者と職員が直接に給与や労働時間などについて話す機会は少ないが、意見・要望などがある時にはホーム長より代表者へ報告していっている。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 代表者・ホーム長は色々な研修を勤めて下さり、全職員が研修を受けれる機会を設けている。研修に参加した職員は報告書を提出し、ミーティングの時間等を利用して発表していっている。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修へ参加した際に他事業所の職員と情報交換などを行い、サービスの向上に努めていっている。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前の面談や実際に見学に来て頂く等して、不安なこと要望などを聞き安心して過ごして頂けるような関係づくりに努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 相談から実際入居されるまで話し合い、信頼関係を築けるように努めている。	
17		初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) その都度相談に応じ、対応していている。 (訪問歯科・訪問マッサージ等)	
18		本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 食事する際には一緒に食事をしたり、洗濯物たたみや食器拭き等、出来ることがあれば手伝って頂く等して利用者との関係を築いていけるよう努めている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族へは毎月の様子を手紙でお知らせし、面会に来られた際には近況をお伝えしている。また、家族からの要望などもお聞きし、一緒に支えていけるように努めていている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 知人や友人の面会の際にはには居室にてゆっくりお話しが出来るように支援している。また、手紙や電話等を通じて関係が途切れないようにしている。 (外部評価) 職員と一緒にご自宅に戻った際「声が聞こえたから」と近所の方が訪ねて来てくれたようなことがあった。そのことがきっかけとなり、年に数回、仲良しの友人が誘い合わせて集まってきている。息子さんに頻繁に電話したい方については、職員が利用者ご本人の様子を伝え、息子さんの都合を把握して取り次ぐようにしている。息子さんは毎月会いに来てくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブルの座る位置を配慮したり、孤立しないように職員が間に入り利用者同士が関わっていけるよう支援している。日常生活の中で利用者が利用者の肩を揉んでまわり、コミュニケーションをとっていることがある。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もはな祭りの招待状を送付したりして、関係性を大切にしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりの表情や体調等日常生活の中で観察し、日々の関わりの中で思いを汲みとり把握していけるよう努めている。	
			(外部評価) 入居前には、管理者が自宅に出向き、ご家族やご本人の話を聞き取り、入居者情報シートにまとめて職員間で共有している。職員は毎日、午前中に「今日一日をどんな風に過ごしたいか」利用者に聞き、その日の過ごし方の希望を知るよう取り組んでいる。利用者の状態によっては、入浴時間や行いたいこと等、その都度聞きながら支援するケースもある。人形の洋服作りがお好きな方には、一緒に手芸店に出かけて布地等をじっくり選べるよう支援している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時の情報や利用者・家族から話を聞き、入居後の生活に活かしていけるように努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の様子や体調等、個人記録に残し、職員間で共有し合い支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月1回カンファレンスをおこない、介護計画の原案を作成している。それを元に家族と話し合い、本人の現状に即した介護計画の作成に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者個々の介護計画は1冊にファイルし、職員は計画を見ながら支援して個人観察記録に記入している。バイタルサインや食事、入浴、排泄等についても、同じページに記入欄を設け、一日の状態が把握しやすいような仕組みを作っている。モニタリングは3ヶ月毎に行い、計画の見直しにつなげている。又、状態変化時にはその都度見直しを行なっている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個人観察記録に日々の様子や介護計画の内容が実践出来たのかを記入し、職員同士が共有し合っている。介護計画の見直し時にも活用していている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者・家族の意向を汲み取り、病院受診や歯科往診等状況に応じた対応に心掛けている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>近所のお店への買物や産直市や訪問散髪の利用等、本人の能力が発揮できるような支援をおこなっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 主治医による週1回の往診にて健康管理を行って いる。また、必要に応じて歯科等の往診も受けら れるよう支援している。	
			(外部評価) 同一敷地内にある母体病院の医師2名が分担して利用者 を診ており、夜間や急変時は、ユニットにこだわらず 臨機応変に対応してくれて、ご家族の安心感につな がっている。母体病院の看護師は処置等、定期的に 来るため職員は相談等をしながら支援している。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) ホーム長や母体病院の看護師とは申し送りでの報告や 来訪時に情報等を伝え、適切に受診・看護を受けら れるよう関係を築いていっている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 定期的に面会に行き、その際に状態等伺い、医師・看 護師との情報交換を行っている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 実際利用者が重度化した場合や終末期ケアになっ た時には家族、主治医と相談して、利用者・家族の意向に 添えられるケアに努めていっている。	
			(外部評価) この2年間で5名の利用者の看とりを支援した。入居時 には、ご家族に終末期の希望を聞いている。ご家族に よっては、「心臓マッサージはいりません」と意向を 言う方や「最期まで見てくれますか」と不安点を質問 する方もあるようだ。ご家族の気持ちが変化する事も 踏まえ、管理者はいつでも相談できることや入院もで きることを伝えており、状態変化時には、ご本人やご 家族の希望に沿った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会の議題に取り上げ話し合い、訓練を行い身につけていっている。AEDの使用方法も定期的に復習していっている。また、連絡網を作成し緊急時には医師・職員が駆け付けれるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に避難訓練を行ったり、町内会で行われる防災訓練に参加させて頂き、その際に消防署や町内の方々にも協力が得られるよう話しあっている。 (外部評価) 今年11月、事業所が所在する地区の3つの町内会と一緒に、法人の敷地内で「合同防災訓練」を行なった。案内は事業所が作成し、町内の回覧板や地域の掲示板で知らせ、当日は地域の方や利用者、職員等、約50名程参加した。事業所2階の台所からの出火を想定して、非常階段から利用者を手引き歩行で誘導したり、担架で降るす訓練も試した。起震車や煙の体験、水消火器での消火訓練を行ったり、消防署員による相談コーナーも設けた。事業所ではこの他に、夜間想定避難訓練や通報訓練も年に数回行なっている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、人格・尊厳を傷つけないように努めていっている。 (外部評価) 利用者のお誕生日にはご家族を誘ってお祝いをしている。ピアノ演奏の得意な利用者の演奏でバースデイの歌を歌ったり、職員手作りのケーキを用意している。事業所の便りやブログの写真は、ご家族に許可を得ている方のものを使用している。「はな便り」の題字は、利用者が順番に書いてくれている。職員は、海外生活の長かった語学堪能な利用者のお話を聞き尊敬の念を持ったり、エプロンのほつれを繕ってくれた方にお礼を伝える等して支え合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で利用者の思いや希望を汲みとり表出していけるような声掛け・支援に努めていっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりのペースや体調等に合わせた生活が送れるよう努めている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の方に季節に合った衣類を持って来て頂き、散髪は月1回訪問で来て頂いてカットしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食べ物や年中行事にはそれに合った献立を作成している。また、誕生日には手作りのケーキで皆でお祝いしている。食後、出来る方には食器拭きを手伝って頂いている。	
			(外部評価) 献立は3ユニット共通で作成し、各ユニットに調理専門の職員を配置している。食材は、野菜、肉、魚等、業者に配達してもらっている。お刺身は特に人気があり、普段の献立に採り入れている。利用者の中には、野菜の下ごしらえや和えたり、盛り付け等する方もある。昼食時間に毎日来られ、食事介助するご家族の方がおり、調査訪問時には、食後の歯磨きの介助も行ってた。体重が増加気味の方については、ご家族と相談して食事を調整したり、食事したことを忘れる方には、大根入りご飯に替えて、おかわりしてもカロリーオーバーにならないよう工夫している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事は毎日チェックし把握していつている。利用者に応じた食事形態(ミキサー食・刻み食・トロミ)で食事を提供していつている。食事が少ない利用者には高カロリー栄養ドリンク等摂っていただき、食事を補っていつている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 起床時のモーニングケアと毎食後には口腔ケアを見守り・介助にて行っている。就寝前は義歯は外して洗浄剤につけて清潔を保っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を作成し利用者の排泄パターンを把握してトイレにて排泄が出来るように支援している。また、居室内にポータブルトイレを置き、利用している方もおられる。 (外部評価) 排泄チェック表で排泄パターンを把握し、なるべく日中は全員トイレに座って排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防としてバランスの良い献立を作成し、繊維質のものを食べて頂いたり、手作りのヨーグルトを摂って頂き、排便を促している。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) その日の体調等考慮しつつ、出来る限り利用者の希望に合わせて入浴して頂いている。また、入浴を嫌がる利用者もおられるので声掛けを慎重に行ったり、清拭を行ったりして対応している。 (外部評価) 入浴は2日に1回の目安で、希望を聞きながら午前、午後のお好きな時間帯に入浴できるよう支援している。同性介助や「一番風呂がいい」という希望に沿って支援したり、柚子湯で季節感を味わえるよう支援している。一人で入浴できる方の中には、浴室で自分の洗濯物を手洗いする方がいる。職員のアイデアで、桶にビー玉を入れて足浴を支援している。	重度の方への支援については、二人介助で湯船に浸かれるよう支援しているユニットもあるが、職員の体制により難しいユニットもあるようだ。ケア等の工夫について話し合い、重度の方も気持ちよく入浴できるような支援の実践につなげてほしい。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者は横になりテレビを観たり、本や新聞を読んだり、自由に居室内で過ごしている。室内は個々に合った室温に調節し、季節に合った寝具に調整して、快適に過ごして頂いている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 処方時に個々の薬剤情報にて理解し、服薬時には職員間で確認し合って服薬して頂き、誤薬防止に努めている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の時間を大切にしつつ、出来る範囲でお手伝いをして頂いたり、外出やレクレーションを通して楽しみごとや気分転換を図って頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) その日の希望に添ってはなかなか行えていない所もあるが、後日希望に添えるように支援している。日常的には敷地内を散歩したり、時々ドライブや外食などの計画を立て行っている。また、家族が外出や外泊等行って下さり、協力も頂いている。	
			(外部評価) 外出予定や行事のお知らせは、ユニットのドアのよく見える所に掲示しており、内容を見てご家族が参加される。春には、桜のきれいな公園や川沿いをドライブして花見をしたり、菜の花やさつき、秋桜、菊花展等、季節の花を楽しみに出かけている。いちご狩りは毎年ご家族にも案内して、ご家族と一緒に楽しめるよう企画している。日常的には、重度の利用者もリクライニング車イスでテラスに出てひなたぼっこしたり、敷地内を散歩して気分転換できるよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的にお小遣いは預かって管理しており、必要に応じて支払っている。利用者本人でお金を持っている方もおり、買い物に行った際には自身で支払われている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族・知人より電話がかかってきた際には本人に取りついでお話しして頂いている。また、自身で手紙を書き家族・知人とやり取りされている方もおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングには季節に合ったはなを置いたり、飾り付けをしている。室温にも気をつけ居心地良く過ごして頂けるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間は南向きで、一角には小上がりの畳スペースがあり、日中、昼寝をする方もいる。壁面には季節から紅葉の飾り付けがしてあった。毎週生花店から花を届けてもらっており、利用者が活けてテーブルに飾っていた。利用者が作った手芸作品を並べたり、書道の作品等も掲示してあった。調査訪問時の昼食後には、得意なピアノで懐かしい曲を披露したり、熱心に自転車こぎをして運動する方も見られた。日によってはユニット対抗ゲーム大会を催し楽しむこともある。花壇で育てたゴーヤは利用者が収穫し、佃煮や酢の物にした。敷地内に法人施設が複数あり、アニマルセラピーや書道教室、餅つき等の際には交流している。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ソファに座りテレビを観たり、リビングにて新聞を読まれたり自転車こぎ運動をされたりと各々自由に過ごされている。利用者同士が話しやすいように席を近くしたり工夫している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居時には以前から使われていたものを持って来て頂いている。また、居室には写真を飾ったり、趣味で弾かれる電子ピアノなど持ち込まれている利用者もおられる。家族とも相談しながら、その都度必要な物を持って来て頂き、居心地よく過ごすことができるよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅から持ち込んだ画集を見る方や俳句を短冊にしたためて飾る方、クラシックのCDを聞いたり、観葉植物を置き水やりする方もいる。調査訪問時には、車イスでテーブルの鏡を見ながらブラシで整容している方がいた。カレンダーに、ご家族の命日を忘れないよう記入し、当日はお供えをして手を合わず方や日々の出来事や新聞で読んだ内容を日記に付ける方もいる。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>建物内はバリアフリーで廊下・浴室・トイレには手摺りを取り付け安全に利用して頂いている。また、各居室も入口には名前を書き、トイレも分かりやすく表示している。</p>	